

## 第 42 回 ASPAC 年次総会済州大会

1. 第 42 回 ASPAC 済州大会は、次のような状況で行われました。



日時 2017 年 3 月 9 日～11 日

場所 韓国 済州国際

コンベンションセンター

参加国 ASPAC 8 地区・準地区（日本、オーストラリア、韓国、マレーシア、ニュージーランド南太平洋、フィリピン・ルソン、フィリピン南、台湾）外 6 か国



参加者 815 人（日本地区 61 人）

2. これに先立ち、3 月 7～8 日の間、韓国仁川で、41 人の参加者が研修を受け、日本地区からは佐藤次期ガバナー外 5 人が参加しました。

研修会では、Jim Rochford 次期会長がクラブの新設とともに会員数の増強を強調され、従来の Formula に加え、「the Eye of the Tiger Team（虎の目チーム）目的に向かって真っすぐ進むところから名付けられた。」を導入することが宣言されました。

国際本部の Jeff COO がエルビスの扮装をして次々期開催のラスベガス大会の紹介をしたのはご愛敬でした。

3. ASPAC 大会は、9 日に ASPAC 役員会などが行われ、3 月 10 日の 11 時から開会式が行われました。参加各国の国旗の入場に始



まり、各国ガバナーの入場、Choi Ho-Kwon 大会組織委員長、Lee Kuan Yong ASPAC 議長、Jane Erickson 国際会長などの挨拶があり、最後に韓国の様々な民族舞踊が披露されました。その後第 1 回総会が開催され、各地区からの報告の際は藤原ガバナーが流暢な英語でプレゼンをされました。

4. 翌 11 日は、広域代議員、代議員出席の下、ASPAC 規約改正の審議が行われ、主として規約の字句の修正が議決されました。

この後、次期 ASPAC 議長などの役員、次期国際理事の選挙、および将来の大会招致が行われ、別表 1、2、3 のとおり決定されました。

5. 本会議と並行して奉仕プロジェクト賞、展示賞の審査が行われ、日本地区は、奉仕プロジェクト賞で見事準優勝を射止めました。また 11 日の送別パーティーでは参加各国のパフォーマンスが行われ、日本地区は皆で「ラジオ体操第 1」を演じたのですが、惜しくも入賞を逃しました。





6. 以上、韓国大会組織委員会の周到な準備により、大会は成功裡に終わりましたが、会員数の増強など多くの課題が提起されました。今後、日本地区としても各クラブと協力しながら、様々な戦略を駆使してこれらの課題を一つ一つクリアしなければなりません。マレーシアで行われることとなった次期大会までに少しでも良い結果を残せるよう努力しましょう。

別表

1. 選挙結果

役職	氏名	所属地区/国	備考
ASPAC 議長	Toto Gonzales	フィリピン・ルソン	
ASPAC 次期議長	Peter Zander	オーストラリア	
ASPAC 副議長	Lo Chang-Chien	台湾	
キワニス国代表	Sujan Shrestha	ネパール	
	Raj Jajodia	インド	欠席だったが、ASPAC 合同役員会で承認
国際理事	Peter Kimberley	オーストラリア	

2. 次年度 ASPAC 役員（ASPAC 合同役員会で発表されたもの）

役職	氏名	所属地区/国
ASPAC 事務総長/財務担当	Michel Fongue	ニュージーランド南太平洋
ASPAC 大会組織委員長	Michael Chiew	マレーシア

3. 将来の開催地

2018	クアラルンプール（マレーシア）	前大会で決定済
2019	台湾	地区内で再度討議予定
2020	カトマンズ（ネパール）	